

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2016年 秋号

URL : <http://www.karashi.net/>

「魂の故郷」を感じさせられたウクライナでの体験

ウクライナ（「辺境」の意）が 1991 年旧ソ連から独立できたのは、チェルノブイリ原発事故がによってもたらされる負の遺産を引き受けたくないという旧ソ連の思惑が強く働いたようです。この国には、故郷を失い離散の運命を辿った多数のユダヤ人が居住してきました。しかしこの地に移り住んだユダヤ人は、「ポグロム」や「ホロコースト」に象徴されるように、1500 年以上にわたってキリスト教徒から迫害され続ける歴史を歩んできました。

しかし今、キリスト教に極度の嫌悪感を持つユダヤ人のなかに、ユダヤの文化を保持したままでイエシュア（「イエス」のヘブル語読み）をメシアと信じる人々（メシアニック・ジュー）が多数起こされています。

2012 年 3 月に福島にお招きした被曝体験者ボリス・グリシェンコ師もそのような一人。回心後、首都キエフで「メシアニック・ジュー」の集会を始められた方です。

チェルノブイリ事故 30 年の記念式典に出席後、彼らのリトリートに参加、ユダヤ的視点で聖書を理解する信仰者に接する特権が与えられ、これまで教えられてきたバタ臭い西欧経由の聖書理解に違和感を持っていた私の魂は激しく揺さぶられると共に、何とも表現し難い安堵感に満たされる不思議な経験をさせられました。

四時間以上にわたる礼拝、しかも最初の二時間は身体全体を使って主を賛美、老若男女がひとつになって踊る一体感・・・しかも踊りの所作の多くが日本古来の盆踊りや民謡踊りと驚く程そっくりだったのです。私の魂の奥底に眠っていた何かが目覚めさせられ、これまで切り離されていた枝が幹に繋がられたような感動の体験でした。

「声なき者の友」の輪 代表カタリスト 神田英輔

F V I の働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。

献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。